

指導教員名	辻本乃理子
-------	-------

活動区分	地域活性化型	連携先	自治体・園
			住民組織

～ 洲本市×流通科学大学 社会共創プログラム(域学連携事業) ～

活動の様子



オートキャンプ場予定地見学 (2022.5.14)



最優秀賞受賞企画の実証実験活動 (2022.11.19)

企画・活動概要

辻本ゼミでは、快適に生活することに関して住宅内の環境だけでなく街の環境についても分析・考察し、社会共創活動への積極的な参加を促している。辻本ゼミ3年生10人3チームがエントリーした。4月21日学内説明会、5月14日現地フィールドワーク、7月9日中間発表会、9月3日最終研究発表会。各チームの企画内容は①川釣り体験②SNSを利用した鮎屋地区の認知度UP③竹を活用したイベントの提案、であった。11月19日最優秀賞受賞チームによる受賞提案内容の実現性を検証するため、現地での実証実験活動を実施した。

経緯・背景・目的

2020年度からスタートした兵庫県洲本市との社会共創プログラム『域学連携事業』であり、2022年度で3年目となる。域学連携事業とは、洲本市の住民や行政と連携して地域の活性化を図るための課題を解決するプロジェクトである。



鮎屋の滝 (2022.5.14)

取り組む課題

2022年度のメインテーマは『「鮎屋(あいや)地区」の観光資源・特産物を活用した地域活性化提案』。鮎屋地区に開設予定のオートキャンプ場の活用を含めた地域活性化案を提案する。

本学(学生)の役割

地域が抱える課題を理解し、実現可能な地域活性化の提案を検討することである。現地フィールドワークにて、鮎屋地区の風土と資源について地域住民の方々にご紹介いただいた。学生は鮎屋地区の現状と課題を分析し、本年度のメインテーマに沿った地域活性化案を提案する。



実証実験活動で作成した竹灯籠 (2022.11.19)

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

1チームが最優秀賞を受賞。最終研究発表会後の振り返りでは、現地調査の重要性、チームでの活動の進め方、チームメンバーの役割分担、実現可能な企画提案をすることの難しさなどを実感したとの声が上がった。本活動から課題解決に向けての調査分析能力、企画書の作成や提出にむけた外部とのやり取り、チーム労働、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が向上したと考えられる。



最終研究発表会の様子(2022.9.3)

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



人間社会学部
人間社会学科
准教授
辻本乃理子(ツジモトノリコ)

<専門・担当科目等>
地域居住学、生活環境学、都市計画

<関係者・企業等>

兵庫県洲本市役所企画課、
NPO法人「鮎屋の滝ふれあいの郷」
(洲本市)高橋啓氏
(鮎屋の滝ふれあいの郷)小嶋良一氏